

英語論文講座 (Part3) と 日本語論文講座 (Part2) を開催しました!

4月27日(木) 高校3年生国際科81名を対象に、「英語論文講座③・日本語論文講座②」を実施しました。講師は長崎県立大学地域創造学部の麻生雄治先生で、昨年度から合計すると3回目の講座になりました。毎回ケンブリッジ大学やスタンフォード大学などこれまでご訪問された名門大学のご紹介や、高校教員時代のお話などもユーモアを交えてお話していただいています。

今回は、英語論文でよく用いられる効果的な表現や具体的な文例を豊富にご紹介いただきました。また入試問題にもよく見られる表現を練習問題形式で取り入れていただきました。生徒からは「自分の論文が単調な表現だったので、先生からご教示いただいた推奨表現を用いて格調高い論文を目指します」「インパクトのある論文調の文体を大学でも活用します」とのコメントがありました。

練習問題にチャレンジ! (麻生先生の講座から抜粋 正解は下)

問1 空所に入る適語を下から選べ。

() the importance of imitation and repetition in foreign language learning.

①About ②In ③Of ④On ⑤With

外国語学習における模倣と反復の重要性に関して

問2 空所に入る適語を下から選べ。

It () from what he says that he was aware of the fact.

①conclude ②concluded ③concludes ④follows

彼の発言から彼はその事実に気づいていたということになる

問3 空所に入る適語を下から選べ。

It was also () that the groups which had former experience could significantly improve on the test.

①concluding ②found ③resulted ④worked

前もって経験していたグループはテストにおいてかなり向上するということが分かった



先行研究についてご助言をいただきました

導入・目的・問題設定・方法・結果・
考察・まとめ・今後の展望など項目ごと
に効果的な表現をご教示いただきました

正解: 問1④ (論文のタイトルはOnを用いる。Aboutは大まかすぎる)
問2④ (follow~「~ということになる」)
問3② (It was found that~「~ということが発見された」)